



長瀬小の児童と雪合戦を楽しむ、さとうきび親善大使の城間さん(中央)と泉さん(右)



新雪の上をかけっこする親善大使たち。初めて見る雪に大使たちは大はしゃぎ

雪遊びがとても楽しかった。また来たい



銘苅春史さん(船越小5年)

猪苗代の一面の雪景色にとっても感動しました。雪遊びがとても楽しかったです。クロスカントリースキーも初めての体験でしたが、親切に教えてもらいました。また福島に来て、思う存分雪遊びを楽しみたいです。



城間かれんさん(馬天小3年)

猪苗代での一番の思い出は、緑小や長瀬小のみんなと雪遊びをしたことです。特に雪合戦がお気に入りです。本当に楽しくて、福島に馬天小があればいいのと思います。沖縄にも雪が降ってほしいです。



長嶺有真さん(長瀬小6年)

一緒に雪だるま作りをしたことが楽しかったです。沖縄に雪を持っていくので、向こうの人たちにも雪で楽しんでもらいたいです。沖縄と福島の交流が今後活発になるように、福島のいいところをしっかりと伝えてきます。



古川萌々さん(緑小6年)

さとうきび親善大使に沖縄のことを教えてもらって、ますます行ってみたくなりました。沖縄に行ったら、会津や猪苗代のことを少しでも知ってもらえるように頑張ります。馬天小の人たちと交流するのがとても楽しみです。



出合いの集いで、長瀬小の児童に船越小5年生からのメッセージを手渡す泉さん(左)。さとうきびなどの特産品も贈呈された

福島や猪苗代のいいところをPRしてきます

福島と沖縄の絆を深める

沖縄県から「さとうきび親善大使」が来町

1月22日から25日まで、沖縄県の「さとうきび親善大使」に任命された小学生4人が来県しました。

大使は沖縄県南城市の船越小5年の泉大さんと銘苅春史さん、馬天小3年の城間かれんさんと大城優月さんの4人で、23日は緑小、24日は長瀬小を訪れ、両校の児童と交流を深めました。

沖縄県と本県は交流を目的に「うつくしま・ちゅらしま総合交流事業」を続けており、本県からは毎年2月に「雪だるま親善大使」が派遣されています。沖縄県からの親善大使派遣は今回が初めてです。

泉さんらは両校でスライドを使って沖縄県や自分たちの学校を紹介するなどしたほか、緑小ではクロスカントリースキーやそり遊び、長瀬小では雪だるま作りなどをして猪苗代の冬を満喫しました。

本町からは緑小6年の古川萌々さんと長瀬小6年の長嶺有真さんが雪だるま親善大使として沖縄県を訪問します。2人は「福島や猪苗代のいいところをしっかりと伝えてきたい」と抱負を語ってくれました。



町役場に門松を届けた増子理事長(左)ら

良い年になりますように

シルバー人材センターが門松を贈呈

町シルバー人材センターは12月24日、町役場などに門松を寄贈しました。同センターは毎年、会員が作った門松を町内の公共施設などに贈呈していて、今年は町役場のほかにJ R猪苗代駅や高齢者福祉施設などにも贈りました。町役場の贈呈式には同センターの増子恒三理事長が会員と共に訪れ、正面入り口に設置しました。

長年の水環境保全活動称える

猪苗代湖の自然を守る会が環境保全表彰

猪苗代湖の自然を守る会(鬼多見賢代表)はこのほど環境省の水・土壌環境保全活動功労者表彰を受けました。この表彰は、同会が長年にわたり猪苗代湖畔の清掃活動や水質調査などを行い、水環境の保全活動に尽力したことが認められたものです。鬼多見代表は「会員一同受賞を喜んでいます。この賞に負けないように、今後も町民の皆さんの協力をいただきながら、猪苗代湖の水質日本一を目指して一生懸命取り組んでいきます」と話しました。



前後町長に受賞を報告した鬼多見代表(左から2人目)ら

認知症を理解し助け合える町に

認知症サポーター養成講座を開催

認知症サポーター養成講座は1月16日、学びいなかで開催されました。認知症サポーターとは、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を地域で温かく見守り支援する「応援者」のことです。講座には27人が参加。講師は町包括支援センターの職員が務めました。参加者からは「猪苗代全体が、認知症を理解し助け合える町になればいい」「小・中学校でも講座を開いてほしい」などの活発な意見が聞かれました。講座は今後も開催する予定です。



講師の話真剣に聴く参加者

補助金の適正執行のために

補助金等適正化委員会が審議結果報告

町補助金等適正化委員会の鈴木新一委員長は12月25日、前後町長のもとを訪れ、委員会の審議結果を報告しました。審議結果では、補助金が税金などの貴重な財源で賄われていることをふまえて、繰越額が多い補助事業者には補助金の交付を見合わせることや補助金の積算根拠を十分精査することなどを指摘。一方で、事業の効果が確実に見込まれ、町の振興に寄与する場合には、予算の範囲内で補助金の増額を検討することが盛り込まれました。



前後町長に審議結果を手渡す鈴木委員長(右)



選手らに心を込めたおもてなし

土町地区住民がインターハイ歓迎の雪だるま作成



写真上 作業終了後、集会所そばに作った大きな雪だるまの前で記念撮影
写真左 歓迎の思いを込めて雪だるまを作る皆さん。「久々に作る楽しい」「童心に返る」などと笑顔で話しながら、和気あいあいと作業していました

本町で2月4日から8日まで開かれた全国高校総体(インターハイ)・第63回全国高等学校スキー大会の開幕を前に、土町地区では2月1日、住民が歓迎の雪だるまを設置しました。

同地区は猪苗代スキー場と共に発展してきた民宿街。大会で訪れる選手たちに歓迎のおもてなしをしようと、雪だるま作りを企画しました。

作業には住民約30人が参加。アルペン会場の猪苗代スキー場と同地区を結ぶ道路沿いに約20体の雪だるまを作成し、歓迎ののぼり旗も設置しました。土町集会所の南側には、起き上がり小法師の形をした大きな雪だるま2体も作られました。

同地区の佐賀昭男区長は「選手たちにいい思い出を作ってもらって、また猪苗代を訪れてもらいたい」と住民たちと爽やかな汗を流していました。

五穀豊穡や無病息災を願う

町内の各地区で歳の神

1月10日から15日にかけて、小正月の伝統行事「歳の神」が町内の各地区で行われました。半坂地区の歳の神は1月15日、鶴峯稲荷神社そばの広場で行われ、地区住民が五穀豊穡や無病息災、厄払いなどを願ってたきあげました。住民たちは振る舞われた甘酒やみかんを味わったり、持ち寄った餅やするめを焼いて食べたりして、伝統行事を楽しみました。広場のそばには雪灯籠が作られ、雰囲気盛り上げていました。



大勢の住民が集まり、一年の幸せを願った半坂地区の歳の神



買い物客などでにぎわった中央商店街

縁起物などを求め長蛇の列

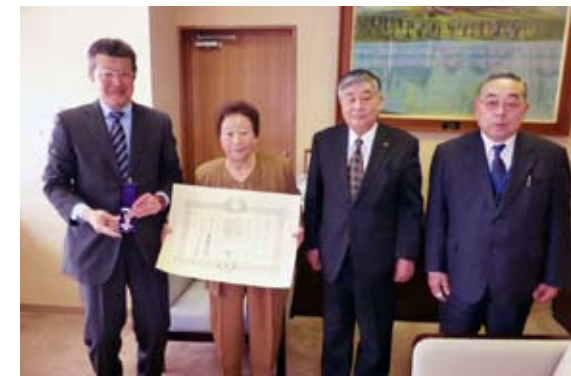
新春恒例の十三日市が開催される

新春恒例の初市「十三日市」は1月13日、中央通り商店街で開かれました。オープニングセレモニーでは、神事、鏡開きや町芸能保存会の太鼓演奏の後、先着150人に福袋がプレゼントされました。通りには起き上がり小法師、風車やだるまなどの縁起物や飲食物の露店が並び、多くの買い物客でにぎわいました。昨年末に町商工会が販売した商品券で買い物をした人が応募できる抽選会も開催され、豪華賞品当選者の発表に会場が沸きました。

故菅井誠さんに叙位叙勲伝達

従六位・瑞宝双光章の荣誉に輝く

元猪苗代小学校長の故菅井誠さん(上戸駅前)への叙位・叙勲伝達式は1月22日、町役場で行われ、故人に代わり出席した妻清子さんと長男の明人さんに前後公町長から勲記と勲章が伝達されました。菅井さんは昭和22年から42年間にわたり小学校の教育に携わり、学校教育の振興・充実に顕著な実績を残しました。教職を退いた後は町教育委員会委員に就任。平成13年からは2年間委員長を務め、地方教育行政の振興に尽力しました。



伝達式に出席した明人さん(左)と清子さん(左から2人目)



受賞の報告に訪れた増子さん(中央)

増子恵二さんに文部科学大臣表彰

社会教育振興の功績称える

社会教育功労者として文部科学大臣表彰を受けたボーイスカウト福島連盟理事長で日本ボーイスカウト北海道・東北ブロック協議会長の増子恵二さん(樋ノ口)は12月26日、町役場を訪れ、前後町長に受賞を報告しました。この表彰は、ボーイスカウトの指導者を長年務めるなど、社会教育の振興に尽力した功績が認められたものです。増子さんは「たいへんありがたい。今後も良い子どもたちを育てるために精進していきたい」と話しました。

年頭に無火災・無災害願う

町消防団幹部らが出初め式を挙行

今年1年の無火災、無災害などを祈願する出初め式は1月6日、町内の諏訪神社で行われ、町消防団幹部など約50人が出席し、玉串をささげて町民の安全を祈願しました。神事後、前後町長が「町民の生命財産を守るという崇高な使命の下、消防団の一層の尽力を期待する」とあいさつ。五十嵐正義団長が「団員各位が職務を全うする自覚を新たに、地区住民の安全を守るとともに、防災意識の高揚に努めてもらいたい」と団幹部らを鼓舞しました。



町民の安心、安全な暮らしを祈願しました



五十嵐会長(右)からスキーの板を受け取る児童

猪苗代ならではの楽しさ味わって

猪苗代スキークラブが避難児童にスキー用具貸与

猪苗代スキークラブは1月10日、町内に避難し小学校に通う児童らにアルペンスキーセット一式を貸し出しました。東日本大震災後、同クラブが毎年実施しているもので、今年は12人に貸与されました。貸与式では同クラブの五十嵐憲雄会長が「スキーを通して一生に残る思い出を作してほしい」とあいさつ。児童代表の西山耕介さん(猪苗代小6年)は「小学校最後の年なので、悔いが残らないようにしっかり滑りたい」とお礼を述べました。